

《幼児教育》

## 園児が主体的に遊びを展開するための環境構成と援助の工夫 ～製作遊びにおいて自分なりに考え工夫する活動を通して～

那覇市立上間こども園保育教諭 新垣 仁美

### 〈研究の概要〉

園児の遊びは、興味や関心を抱くことから始まり、主体的に環境に関わりながら展開されていくことが大切である。主体的な活動を促すためには、保育教諭が園児を理解し、それぞれの興味や関心の変容に沿った援助を行うことが必要である。また、園児が遊びを展開する中で、様々な人や物と関わり、発達に必要な多様な経験を積み重ねていくことも必要である。

本研究では、園児が主体的に遊びを展開する姿を目指し、人や物との多様な関わりを経験できるような環境構成と、園児の興味や関心に沿った援助の工夫について研究した。製作遊びにおいて、園児一人一人の実態を丁寧に捉え、それぞれが興味や関心を「抱く・広げる・高める」ように援助を行うことで、園児が自分なりの考えを大切にしながら作り上げていく充実感を味わう姿につながった。また、これらの援助の工夫とともに、園児の実態に応じた製作遊びのコーナー作りを工夫したことで、園児が友達とじっくり取り組める空間で、様々な材料を使いながら、自分なりに工夫する姿が見られるようになった。

実践を通して、園児が主体的に環境に関わるための援助や、自分なりの思いや考えを実現する楽しさを味わうための環境構成の工夫をすることにより、個々の遊びが充実し、互いの遊びが広がり合うことで、遊びを展開する姿につながったと考える。

### 〈研究のイメージ〉

興味や関心の変容

①抱く

②広げる

③高める



やってみる



見立てる

試す



考える

試行錯誤



工夫する



満足

充実

人や物との多様な関わりを  
経験できる環境

興味や関心に  
沿った援助

主体的に  
遊びを  
展開する姿

## 目 次

I	テーマ設定の理由	31
II	研究目標	31
III	研究構想図	32
IV	研究内容	32
1	遊びの展開について	
(1)	主体的に遊びを展開するとは	
(2)	遊びを展開する過程について	
(3)	主体的に遊びを展開するための環境構成と援助とは	
2	製作遊びにおいて自分なりに考え工夫するとは	
(1)	製作遊びについて	
(2)	自分なりに考え工夫するための環境構成と援助とは	
V	保育実践	35
1	保育計画	
(1)	実態把握	
(2)	保育計画	
2	実践事例	
(1)	事例1 興味や関心に沿った援助の工夫 ～遠足から動物園作りへ展開する姿～	
(2)	事例2 人や物との多様な関わりを経験できる環境構成の工夫 ～友達と一緒に自分なりの工夫を楽しむ姿～	
3	実践を通した変容	
IV	成果と課題	40
1	成果	
2	課題	

《主な参考文献》

## 園児が主体的に遊びを展開するための環境構成と援助の工夫 ～製作遊びにおいて自分なりに考え工夫する活動を通して～

那覇市立上間こども園保育教諭 新垣 仁美

### I テーマ設定の理由

「子どもは環境との出会いから活動し、学んでいく。」と無籐(2018)は述べている。また、子どもの心が動き、楽しさや面白さを感じたり工夫したりする等、人や物とのやりとりが成り立って活動は発展していくものであり、その過程が大切だとも記している。幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（以下教育・保育要領解説）の領域「環境」のねらいの中にも「(2)身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。」と示されている。さらに、園児が主体的に環境に関わり、活動を展開する中で、充実感や満足感を味わう体験の積み重ねが重要であることも記されている。このことから、園児が主体的に環境に関わりながら遊びを展開する過程で得られる多様な経験の積み重ねが大切だと考える。

本園でも「よく遊び 心やさしく たくましい上間っ子の育成」を教育・保育目標に掲げ、園児にとって興味や関心が引き出される環境を準備し、遊ぶ楽しさを感じることも園を目指している。園児が遊ぶ楽しさを十分に感じながら遊びを展開するためには、関わりたくなる環境や、人や物との多様な関わりを経験することができる環境、考えを認め葛藤を支えてくれる保育教諭や楽しさを共有する友達の存在も欠かせない。

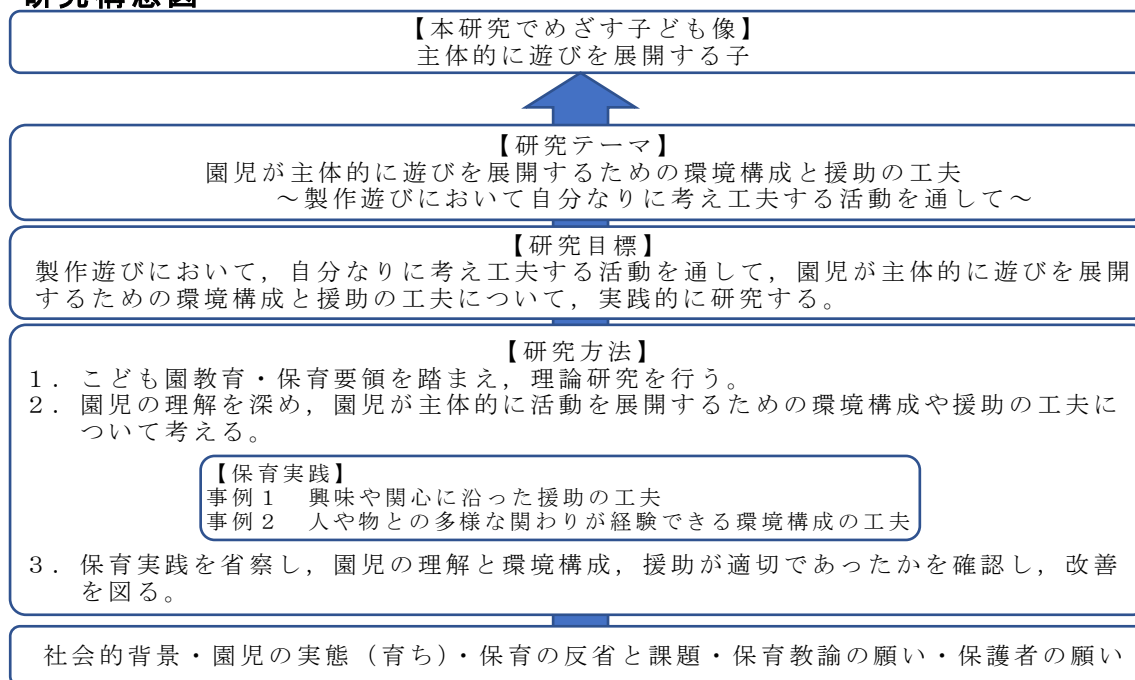
今年度のクラスの実態をみると、初めての遊びにも興味をもって取り組み始める子が多い。しかし、思うようにいかないとすぐに諦めてしまい遊びが中断したり、少し満足すると他の遊びに移行したりと遊びの展開があまり見られない。また、私自身の保育を振り返ってみると、園児が面白さや楽しさを感じられるよう援助を行ってきたが、遊びの展開をリードしてしまうことがあった。保育教諭がリードした遊び方では、その場面での面白さや楽しさを感じることはできても、自分なりに考えて遊ぶ充実感や、やり遂げた満足感等を得ることができない。そのため、園児の興味や関心の広がりや高まりがあまり見られず、「次はこうしてみよう」と遊びを展開することにつながりにくい。また、園児が興味をもって関わりたくなる環境構成を心がけてきたが、園児の遊ぶ姿に沿って、環境を再構成していくことが不十分だったと感じている。このことから、園児の心の動きに寄り添った援助や、遊具や材料を自分なりに扱いながら試したり工夫したりすることができる環境が足りなかったという課題が見えてきた。

本研究では、製作遊びにおいて、人や物との多様な関わりを経験できる環境構成と、園児の興味や関心に沿った援助を工夫することで、園児が自分なりに考え工夫しながら、主体的に遊びを展開する姿につながると考え、本テーマを設定した。

### II 研究目標

製作遊びにおいて、自分なりに考え工夫する活動を通して、園児が主体的に遊びを展開するための環境構成と援助の工夫について、実践的に研究する。

### Ⅲ 研究構想図



### Ⅳ 研究内容

#### 1 遊びの展開について

##### (1) 主体的に遊びを展開するとは

秋田(2017)は『発達 第150号』において、園児が自発的に始めた遊びが、「繰り返し発展し展開していくことで、主体的になるという道筋がある」と示している。また、保育者が意図的に遊ばせてしまうと、子どもの興味や関心が失せ、主体的にはなれないこともあると記している。教育・保育要領解説においても、園児が主体的に活動する姿は、「自ら周囲の環境に働き掛けて様々な活動を生み出し、それが園児の意識や必要感、あるいは興味などによって連続性を保ちながら展開される」ことで育まれていくと記されている。このことから、園児が遊びを展開することと、主体的な活動は相互に関連し合っていると考ええる。

瀬川(2018)は、遊びの始まりを、「子どもの心が動き出し、興味や関心に触れた時」としている。さらに、「あそびが広がったり変化したりする時には、子どもの楽しんでいることが動いています。」とも述べている。無籐(2018)は、心動かされる体験のことを、「内面が動く」と表現し、その心動かされる体験を積み重ねながら、子どもの主体的な遊びが発展していくとしている。このことから、遊びの中で園児の心が動き、興味や関心が変容していく体験を積み重ねることによって遊びは展開されていくと考ええる。

そこで本研究では、園児の興味や関心の変容を「抱く・広げる・高める」といった段階を経ていくものだと想定し、園児の心の動きを捉えていく。園児が興味や関心を広げ高めながら、自分なりの思いや考えを基に、工夫しながら主体的に遊びに取り組むことで、遊びを展開する姿が育まれると考える。

##### (2) 遊びを展開する過程について

成田(2017)は、子ども主体の活動の重要性について論じており、子ども主体の活動

では、結果やできることよりも過程が重視されるとしている。教育・保育要領解説にも、「遊びを展開する過程においては、(中略)心身の様々な側面の発達にとって必要な経験が相互に関連し合い積み重ねられていく」と記されている。このことから、遊びを展開する過程において、多様な経験を充実させることが大切だと考える。多様な経験とは、遊具や素材を使って遊ぶ経験等の物との関わりや、保育教諭に認め支えられたり、友達の姿に刺激を受け協力したりする等の人との関わりである。よって、遊びを展開する過程では、園児の興味や関心の変容、物と関わっている姿から見取る心情や行動、人との関わり等、様々な側面から見ていく必要があると考える。そこで、遊びを展開する過程における多様な経験を図1に整理した。

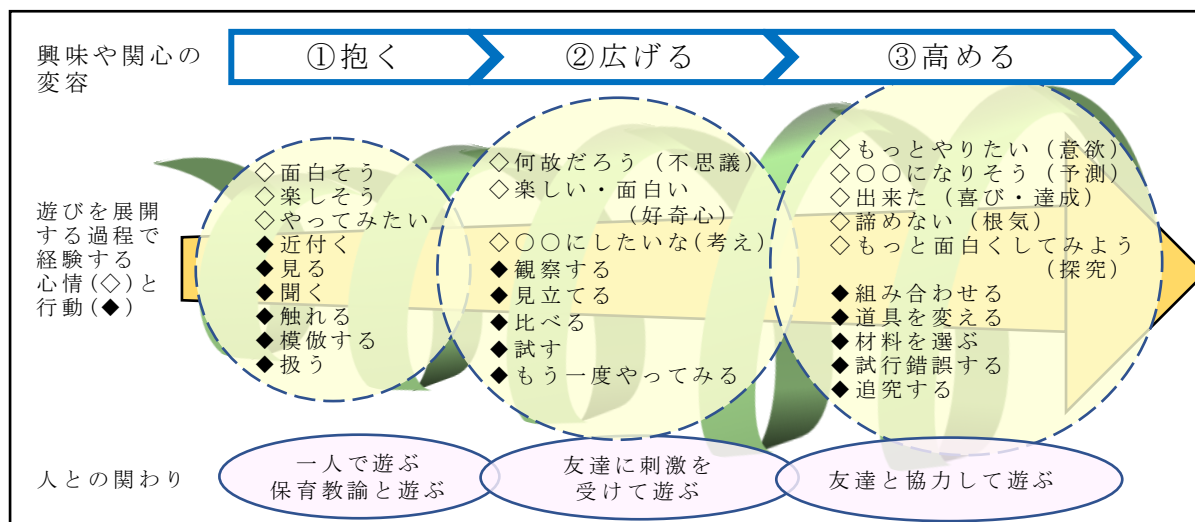


図1 遊びを展開する過程における多様な経験(筆者作成)

### (3) 主体的に遊びを展開するための環境構成と援助とは

教育・保育要領解説の領域「環境」では、「身近にある物や遊具、用具を使って試したり、考えたり、作ったりしながら、探求していく態度を育てることが大切」だとしている。また、園児が心と体を働かせて、「自分なりに比べたり、これまでの体験と関連付けて考えたりしながら物に関わっていく」ことで、「その物や遊具、用具にあった工夫をすることができるようになる」と記されている。さらに、様々な活動の中から園児自身が興味や関心のある活動を選び没頭し、「その活動の中で発達にとって大切な体験が豊かに得られるように環境を構成することが必要である」とも示されている。加えて宮里(2020)は、「没頭して遊ぶ子どもの姿が、他の子どものやりたいという思いを引き出していく」と述べており、同じ場で遊ぶ友達の存在は、重要な人的環境となる。

高山(2021)は、「子どもが遊びをつくりだし、喜びを生み出せるように援助すること」が保育者の仕事であると述べている。また、教育・保育要領解説には、遊びの展開に必要な援助を考える際には、園児の活動を理解することが重要だと示されている。さらに、園児の活動を理解する際には、園児が活動を通して「どのような体験を積み重ねているのか、その体験が園児一人一人にとって充実していて発達を促すことにつながっているのか」に着目することが必要だとしている。このことから、園児が主体的に環境に関わるための援助として、保育教諭は、園児の心の動きに目を向け、育ちつつある姿を見取りながら、興味や関心に沿った援助を行うことが大切だと考える。

以上のことから、園児が主体的に遊びを展開するためには、人や物との多様な関わりが経験できる環境構成や、興味や関心に沿った援助が重要だと考える。

## 2 製作遊びにおいて自分なりに考え工夫するとは

### (1) 製作遊びについて

「乳幼児にとっての造形表現とは、対象との対話であり、その過程を可視化して楽しむ探索活動（遊び）である。」と群司(2018)は述べている。また、園児が表したいイメージを具現化する過程において、「多様な素材や用具に親しみ、手応えを感じながら工夫して遊ぶ中で『もっとよくするにはどうしたらよいか』と試行錯誤を繰り返し、納得のいくまでやり抜く達成感を味わえることが造形表現のよさである」と記されている。さらに、石川(2019)は、4～6歳を、「つくったもので遊ぶ段階」と位置づけ、「自らの実体験をもとにしながらたくましい想像力を発揮し、生活の中に生かしていく時期」としている。このことから、多様な物との関わりを経験するだけでなく、自らの思いや考えを取り入れ生かしていくことができる製作遊びは、幼児期後半の園児にとって、適切だと考える。園生活における造形表現の活動は様々な場面で行われ、保育教諭が用具の使い方や技能を伝えることを意図した活動の場やみんなで協力して一つのものを作り上げることをねらいとした活動の場、遊びの中で園児が作りたいイメージを自由な形で実現していく製作遊びの場等がある。今回の研究では、園児の興味や関心から始まる活動として、製作遊びの場において、実践研究を進めていく。

### (2) 自分なりに考え工夫するための環境構成と援助とは

群司(2018)は、「子どもはものをつくることを通じて、自分なりの意味や価値をつくり出し、つくり変え、またつくり続けている。まさに子どもが『感じて・考えて・工夫する』姿そのものである」としている。『園児が心を寄せる環境の構成』において、環境の構成には、安心して関わられるような雰囲気や、興味や関心が湧き、思わず関わりたくなるようにすること、さらには自ら活動を展開していくことができるように配慮し、遊具や用具、素材の種類、数量や配置などを考えることが必要と記されている。それらを踏まえ、成田(2017)の造形活動における環境への考えを基に、製作遊びにおける環境構成について表1に整理した。

表1 製作遊びにおける環境構成  
(筆者作成)

- ・関わりたくなる環境
- ・多様で豊富な材料がある環境
- ・道具や材料が整理されている環境
- ・活動場所が充実している環境  
(動線に配慮したコーナー作り)
- ・壁面構成を活かした環境  
(園児と共に構成する)
- ・十分に楽しめる時間の保障
- ・遊びの姿に沿って変化のある環境

河邊は、『幼児教育じほう』において、「子どもは遊びの中でよく考えている。そして自分の考えが他者と共有されて実現していくことで、より深く考えようとする」と述べている。さらに保育教諭は、「思考をフィードバックするような言葉を投げ掛けたりすること」が必要であるとも記している。このことから、園児が認められる喜びを感じたり、考えを広げたりすることで、遊びを展開していく意欲へとつながり、興味や関心も高まっていくのではないかと考えた。本研究では、遊ぶ姿から園児なりの考えを推し量り、イメージ実現のための提案や補助等を行う。さらに、園児の気持ちが高まっている活動直後の時間に、他児と共有する場として「紹介タイム」を設定し、園児の考えを尊重する等、園児の姿に沿った援助を工夫する必要があると考える。

以上のことから、製作遊びにおいて、自分なりに考え工夫する姿を支えるための環

環境構成と援助について、人や物との多様な関わりができる環境構成と興味や関心に沿った援助に照らし合わせ、表2に整理し保育実践に活用していく。

表2 園児の興味や関心の変容に即した環境構成と援助（筆者作成）

興味や関心の変容	①興味や関心を抱く	②興味や関心を広げる	③興味や関心を高める
人や物との多様な関わりが経験できる環境【環】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関わりたくなる場の設定</li> <li>・扱いやすい道具や材料</li> <li>・手に取りやすい配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくり取り組める場の保障</li> <li>・多様な材料</li> <li>・遊びを見通した道具の準備</li> <li>・道具や材料の量の調整</li> <li>・他児の遊びを共有する場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の確保</li> <li>・継続できる環境</li> <li>・他児の作品に見たり触れたりしやすい環境</li> <li>・イメージに合った新たな道具や材料の提示</li> <li>・他児に認められる場</li> </ul>
興味や関心に沿った援助【援】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心を引き出す</li> <li>・勧誘</li> <li>・具体的な例示（モデル）</li> <li>・遊びの援助者（安心）</li> <li>・他児の遊ぶ姿を知らせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認める</li> <li>・共感</li> <li>・共同作業</li> <li>・遊びの理解者（受容）</li> <li>・提案</li> <li>・補助</li> <li>・イメージの明確化</li> <li>・気付きや考えを促す</li> <li>・具体的に褒める・仲立ち（繋ぐ）</li> <li>・他児の考えに気づかせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージの拡大化</li> <li>・考えや工夫を尊重する</li> <li>・考えや工夫を取り入れる</li> <li>・葛藤を支える</li> </ul>

## V 保育実践

### 1 保育計画

#### (1) 実態把握

本研究の対象クラスは、年長5歳児22名のクラスである。実態把握として、10月時点での製作遊びにおける遊びを展開する姿について担任間で見取った。集中して遊ぶ姿が少なく、短時間で他の遊びに移ってしまう園児が4名、継続して取り組んでいる様子はあるが、同じ遊び方を繰り返している園児が9名だった。年度当初に比べ、同じ遊びに継続して取り組む園児の姿は増えており、友達関係の広がりから、友達の遊ぶ姿に刺激を受けている姿も見られるようになってきた。課題として、園児が自分なりに考え工夫しながら遊びを展開する姿が少ないことが挙げられる。

#### (2) 保育計画

11月から12月にかけて、製作遊びにおいて、人や物との多様な経験を積み重ねることができるよう、援助と環境構成の工夫を行いながら実践に取り組んだ。園児の興味や関心に沿った活動となるよう、季節的な要素や園行事等の活動に配慮した。

	主な製作遊び	◇ねらい・内容
11月 第3週	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どんぐり製作</li> <li>○車作り</li> <li>○発表会の劇の小道具作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇様々な素材に関わりながら、製作遊びを楽しむ。</li> <li>・どんぐりに絵を描いたり動物作りをしたり、箱を使って車を作る等、見立て遊びからイメージを広げていく。</li> <li>◇劇遊びのイメージを膨らませ、必要なものを考えたりしながらイメージを実現していく。</li> <li>・劇のイメージから作りたいものを考え、必要なものを作る。</li> </ul>
11月 第4週	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人形・家作り</li> <li>○動物作り</li> <li>○発表会の劇の小道具作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自分なりのイメージを持って製作遊びを楽しむ。</li> <li>・作りたいものに必要な素材を選んだり、組み合わせたりしながら、製作遊びに取り組む。</li> <li>◇友達と考えを出し合いながら、遊びを広げていく楽しさを味わう。</li> <li>・友達とイメージを共有し、必要なものを作り、表現する。</li> </ul>
12月 第1～3週	<ul style="list-style-type: none"> <li>○動物作り</li> <li>○人形・家作り</li> <li>○クリスマス製作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自分なりに考え工夫しながら作る楽しさや充実感を味わう。</li> <li>・作りたいイメージに合うよう、自分なりに考え工夫しながら製作遊びに取り組む。</li> <li>◇友達と考えを伝え合いながら、工夫することを楽しむ。</li> <li>・友達と考えを出し合いながら、遊びを広げていくために自分なりに考えたり工夫したりする。</li> </ul>


11月の保育実践では、園児が製作遊びに継続的に取り組む中で、作る楽しさを感じており、友達と一緒に同じものを作ったり、他児の作っているものにも興味や関心を示したりする姿が増えてきた。12月には、遠足で動物園へ行った経験を活かしたり、季節的行事を取り入れたりしながら製作遊びを展開できるよう、保育実践を行った。



## 2 実践事例

### (1) 事例 1 興味や関心に沿った援助の工夫～遠足から動物園作りへ展開する姿～

遠足で動物園へ行った共通体験を活かせるよう環境構成を工夫し、それぞれの動物作りが充実するよう、表 2 を基に、興味や関心に沿った援助を行った。

○園児の姿（考え工夫する姿）    ♥援助    ☆環境構成    保育教諭の意図	
① 興味や関心を抱く	<p>～動物への興味や関心を引き出す工夫～</p> <p>○朝の会で、遠足についての振り返りを行ったところ、動物園で実際に動物を見て、驚いたことや感じたことを、友達または保育教諭に積極的に伝える姿が見られた。</p> <p>♥ ☆遠足の振り返りの場で、動物の写真を活用し、園児の発言を掲示した。【援①・環①】</p>  <p>写真やメモを活用し、共通体験での興味や関心を引き出す。</p> <p>～A児のお絵かき（興味や関心を引き出す援助）～</p> <p>○室内遊びの時間に、小さな紙に様々な動物を描いて遊んでいたA児の姿があった。</p> <p>♥ 「何を描いているの？大きな紙に描く？」【援①】</p> <p>○A児「うん。これはカメレオンで、（絵を指差ししながら）このヘビは、毒蛇だよ。猿はね、赤ちゃん猿もいたんだよ。」</p> <p>○A児は、描いた絵を楽しそうに説明し、さらに2枚目の紙にも描いていた。</p> <p>☆A児の絵を動物の写真の傍に貼った。【環①】</p> <p>製作活動に苦手意識を持っているA児が、自分から絵を描いており、動物への興味や関心が、製作意欲へと繋がっている姿が見られる。その姿を大切に、好きな動物を表現し楽しむ製作活動へと、興味や関心を広げようとする。</p> <p>～B児のヘビ作り（場の設定）～</p> <p>○遠足前に空き箱でB児が魚を作っていた。</p> <p>☆B児の魚を置く場所として池を作った。</p> <p>【環①】</p> <p>B児が作り始めた生き物を、遠足の動物園の経験と繋げる。</p> <p>○B児「ここが魚の池だ。でも一人じゃ可哀想だから、ヘビも作ろう。」</p> <p>○空き箱を材料ワゴンから取ってきてガムテープで繋げる。</p> <p>♥ 「ヘビも増えたんだ。いいね。」【援②】</p> <p>ヘビを増やしたことを認め、意欲を受け止めた。B児は空き箱を繋げる遊び方が続いているので、興味や関心を高めていくために、他の素材を使う面白さを知らせ、表現の幅を広げられるようにする。</p>
	<p>～それぞれの動物作りへの援助～</p> <p>♥朝の会で「ごちゃまぜカメレオン」の絵本を読み聞かせした。その際、A児のカメレオンの絵や、B児のウミヘビを紹介した。【援①】</p> <p>動物に関連した絵本の読み聞かせを行い、動物に対する興味や関心を、他児へも広げる。</p> <p>～園児と保育教諭のウミヘビ作り（材料の提案・他児の考えに気づかせる援助）～</p> <p>♥ウミヘビの細長い体を、新聞紙で作って見せる。【援②】</p> <p>○新聞紙で作ったヘビの体を見て、</p> <p>C児「これをベロにしたら良いんじゃない？」と思いつき、赤のスズランテープを持ってきた。</p> <p>♥「良いね、やってみよう。」【援②③】</p> <p>○D児「口も必要だよ。」</p> <p>♥「口はこうかな？」と、新聞紙でパクパク動く口を作ってみた。【援③】</p> <p>○保育教諭が作った口の部分に、D児がスズランテープを貼り、折りたたんで口の中にしまっていた。</p> <p>ヘビの口から舌が出てくる様子を、D児なりに工夫し再現していた。</p> <p>○「可愛い！自分もヘビを作りたい。」との声があり、朝の会の後、6人程が同じ場でヘビを作り始めた。</p>
② 興味や関心を広げる	
E児のヘビ作り (考えを促す援助)	<p>○E児「先生のヘビと同じ形にしたいけど、口が固くならない。」</p> <p>♥「固くしたいんだね。何を使ったら良いかな。」【援②】</p> <p>○新聞紙のみでなく、段ボールを使い、材料を工夫した。</p>
F児のヘビ作り (不安に寄り添い補助する援助)	<p>○F児「出来ないから一緒にやろう。」</p> <p>♥「ここを折って。」と具体的に手順を教えたり、手を添えたりして補助する。【援②】</p> <p>○安心した様子で、保育教諭に確認しながら、少しずつ自分で作っていた。</p>



～G児のヘビ作り（遊びの理解者・共同作業者としての援助）～

- ヘビ作りを始めたB児のそばでG児が、作る様子を見ながら、ヘビ作りの話によく入っていた。
- ♥「G君も一緒に作ってみたい？」【援①】
- G児「ボク、出来ないよ。」
- ♥「大丈夫、一緒に手伝うよ。」【援①】
- G児「じゃあ、やってみようかな。」
- 新聞紙を持ってきてヘビ作りを始め、隣でB児が作り進める。
- B児「できた！もっとつなげよう。」と長くすることを楽しんでいた。
- G児は、新聞紙をととても丁寧に丸め、その後で絞っていた。その様子を見て
- B児「ボクも細くしたいな。」と言う。
- ♥「G君、とても上手だね。B君も細くしたいって言っているから教えてあげてくれない？」【援②】
- G児「いいよ。」と優しく教えていた。
- G児のヘビの形が出来てきた。
- ♥「次はどうする？」【援②】
- G児「顔と模様が必要なんだよな。」
- G児「難しいところからやる。顔にする。」
- 新聞紙を折りたたみ、顔を作った。
- G児「大きいな。」とG児の考えている大きさと合わない様子。
- ♥「小さくしたいの？」【援②】
- G児「これ（体）と同じにしたい。」
- ♥縦に折ると幅が変わることを伝える。【援②】
- 長さにもこだわり、**何度も合わせながら、ほどよい長さに合わせて切った。**
- 顔を作り終え、模様をつける工程に入る。
- G児「黄色と黒の大きい画用紙が必要。」
- 自分から**必要な材料を要求する。**
- ♥G児のイメージする毒蛇の模様の付け方が分からなかったので、G児のやり方を見守る。【援②】
- G児「こんなにしたい。」
- 画用紙を細長く切って、ヘビを包み、黄色と黒の縞模様にして見せた。**G児なりの考えを実現するため、自分なりの方法で工夫する姿が見られた。**
- ♥「黒と黄色のシマシマにしたかったんだ！かっこいいね。」画用紙を切る手伝いをした。【援③】
- 保育教諭が切った画用紙を、G児が縞模様貼っていった。長いヘビで、根気のいる作業だったが、黙々と取り組んでいた。片付けの時間になり、「続きは明日やる。」と、明日も継続的に取り組もうとする発言が聞かれた。

製作遊びに消極的なG児だが、ヘビへ興味を抱いている様子が見られる。勧誘し、遊び始めるきっかけをすることで、ヘビ作りを楽しめるようにする。

言動から自信のなさが伺えるG児。他児に教える経験から自信につなげる。

G児に決定する場を促し、自分の考えで進めている実感がもてるようにする。

イメージ実現の為の具体的な提案をする。

G児が作りたいイメージを自分から伝える姿が見られ、興味や関心が高まってきたと捉える。



黙々と画用紙で縞模様をつけていくG児



それぞれが作ったヘビをじゃれ合わせるG児とA児



数日かけ完成させたヘビを紹介タイムで披露するG児

～紹介タイムの設定（園児なりの考えや工夫を尊重する援助）～

- 「先生、見て。ライオンの尻尾をフワフワにしたんだよ。」
- それぞれの製作遊びが盛り上がるに連れて、自分なりに工夫したことを保育教諭に伝えに来る姿が見られるようになった。
- ☆片付けの前に、作ったものや園児なりの考えや工夫を他児に紹介する場として紹介タイムを設けた。【環③】
- ♥「尻尾をフワフワにしたいから、毛糸を使ったんだって。」と、遊びの様子から、素材を工夫している姿を紹介した。
- 【援③】
- 素材を工夫している姿を他児へ伝え、認められることで、園児の自信に繋げていく。また、他児には、素材を工夫する面白さに触れる機会とする。



自分達の工夫が取り上げられ嬉しそうな表情

③ 興味や関心を高める

～動物作りから動物園作りへ（考えや工夫を取り入れ、継続できる環境の再構成～

○H児「作った動物で『そらのくに（動物園）』を作りたい。」

H児の新たな考えを取り入れることで、他児の遊びへの刺激になると考えた。

♥紹介タイムにてH児の考えを他児へ紹介した。【援③】

○多くの園児が賛同し、「キリンも作ろう。」や「ぞうもいたよね。」等の声もあがった。

☆動物が増え始めたので、園児と一緒に展示場所を広げ、環境の再構成を行った。【環③】

○動物園のイメージを持ち、動物の小屋を作る姿も見られた。

遊びの姿に合わせてスペースを確保し、環境を再構成する。

○それぞれの動物作りが「そらのくに（動物園）」を作ろう。」

という目的に向かい始めた。遠足の写真を見ながら様々な動物を作り始める子が増え、自分なりに材料を工夫して作る姿や、大きな動物を数人で協力して作る姿も見られた。

○B児は、遠足直後に魚やへびを作っていたが、その時は、箱を繋げるだけの作り方だった。製作遊びに繰り返し取り組む中で、他児の作り方をしたり、動物への興味や関心が高まったりしたことで、写真を見ながら形や色を自分なりに工夫して作っていた。



B児のアカショウビンは、色合いの再現を工夫している



I児のワニは、背中のゴツゴツをトレーの凹凸で工夫している

【考察】

園児の興味や関心に沿った援助を行うことで、それぞれの作りたい思いを支えることができ、園児が自分で考え工夫した達成感を感じる姿につながったと考える。さらに、これまでの遊ぶ姿から育ちつつある姿を見取り、実態に応じた援助を行ったことで、個の活動が充実し、互いの遊びがつながり、それぞれの動物作りから、みんなでの動物園作りへと遊びが展開したと考える。また、意図的に製作遊びの直後に紹介タイムを設けたことで、園児は、自分の考えが認められる喜びから自信をもつ姿や、他児の考えに触れ、さらに製作遊びへの興味や関心を高めている姿へとつながった。

(2) 事例2 人や物との多様な関わりを経験できる環境構成の工夫

～友達と一緒に自分なりの工夫を楽しむ姿～

○園児の姿（考え工夫する姿）

♥援助

☆環境構成

保育教諭の意図

○J児の実態：仲の良いJ児と一緒に絵を描いたり音楽を聴いたり2人で過ごす姿が多く見られる。またドレスの絵などを描く姿からは、可愛いものを好む傾向が伺えた。

○遊びの様子：J児はK児と一緒に過ごしているが、活動の内容に変化がなく同じような遊び方を繰り返している。

季節的行事を取り入れた製作遊びにおいて、様々な材料に関わりながら、じっくりと遊ぶ経験を通して、自分のイメージに合った工夫を楽しめるようにする。

☆研究内容2(2)に示した製作遊びにおける環境構成の理論や、以下(※)に示したコーナーの特性を踏まえ、季節的行事を取り入れたコーナー作りを行った。

※11月どんぐり製作コーナーで遊ぶ様子から、掲示物や小物で雰囲気のあるコーナーがあると、興味や関心を抱きやすく、思いを膨らませることができることが分かった。今回も、コーナーの雰囲気作りを活かし、サンタクロースやトナカイ、夜の世界や雪といった季節のイメージと関連させながら、製作遊びを楽しめるよう、掲示物の工夫や園児が作ったものを飾れる工夫等を行う。

【環境構成の工夫】

☆一人または、少人数で取り組める居心地の良いスペース【環①】

☆壁面飾りや小物を活用し、コーナーの雰囲気作り【環①】

☆製作遊びに必要と予想される材料ワゴンの準備【環①】

☆作ったものを飾れる工夫【環②】

園児の作品を環境に活かす。

友達とのつながりを感じやすい距離感を作り出す。

様々な素材が近くにあり、選びやすい環境とする。



少人数でじっくりと取り組める空間の工夫



壁面掲示物や小物で雰囲気作りを行い、園児の作品も飾れるようにした



ボンドやビーズ、毛糸やモール等を、取りやすい場所に配置した

○季節的行事を取り入れた雰囲気のコナーに、「可愛い。」と心動かされた女児数名が、小さなテーブルを囲み、絵本を読んだり、お絵かきを楽しんだりする姿が見られた。また、サンタクロースやツリーの折り紙の折り方を掲示していたことから、自分達で掲示物を見ながら、折り紙を楽しんでいた。

♥「可愛いサンタさんだね。それ、ブーツに飾ってみない？」【援②】

ブーツ作りを提案し、興味や関心を広げる。

○J児「ブーツってなに？やってみたい。」

☆準備しておいた「ブーツの作り方」と型紙を渡した。【環②】

○J児とK児と一緒にブーツ作りを始める。

○ブーツの作り方の手順を見ながら、二人で作り進めていた。

ブーツの型が出来、折り紙のサンタクロースを貼ると、

「可愛いね。」と、顔を見合わせて微笑む姿が見られた。また、布をリボンの形にして、モールで巻いて飾り、自分なりの考えを取り入れながら飾り付けを楽しむ様子も見られた。

○J児「先生、このビーズも使って良い？」

近くで松ぼっくりツリー作りに使っていたビーズが、J児の使いたい材料として気になった様子だった。

♥「んー、このビーズは、この数しかないから、たくさんは使わせてあげられないんだよね。」

♥「可愛くしたいんだよね。このピカピカのモールや、金・銀の折り紙はどうか？」【援②】

J児「いいよ、それにする。」

K児「Kも、やる。」

J児「紹介タイムに紹介しよう。」

♥紹介タイムに、ビーズを使いたいと思いついたJ児の考えや、他の材料で飾りを工夫している様子を他児へ伝えた。【援②】

○みんなに可愛いと言ってもらえて、とても嬉しそうな表情だった。

☆作ったブーツを飾りながら保管できるよう、窓に紐を張って、そこに吊した。【環②】

☆翌日、数を十分に確保できる細かなビーズを準備した。【環③】

♥朝の会で、細かなビーズを扱う際に気を付けることを全体に伝えた。

J児に「小さいビーズを準備したから、飾りに使えるよ。」と伝えた。

J児の思いの実現ができるよう、細かなビーズを用意し、環境の再構成を行った。

○朝の会で、ブーツの飾り付けにビーズが使えることになったことを知り、喜んで二人で誘い合い、ブーツ作りに取り組み始めた。

J児「あんまりフリフリしないで。フリフリすると、小さいからバラバラになるよ。」

ビーズを少しずつ手のひらにのせ、綿棒でボンドをぬりながら、丁寧に貼っていた。初めての材料に不慣れながらも、扱い方に気を付けて使っていた。ビーズを使いイメージ通りに可愛く出来たことで、ブーツ作りに没頭していた。

○作っている途中も、嬉しそうに近くにいる保育教諭や友達に見せていた。

J児「これ、J児とK児が作ったの。」

K児「こんなに細かいよね。」

J児「そうだよ。めっちゃ、ちっちゃいよ。」

○周囲に散りばめて張るだけでなく、リボンの上の飾りとしてビーズをつけたりと、工夫しながら飾り付けを楽しんでいた。

♥時折、様子を見に行き「可愛いね。」と、作品を認める声かけや、工夫している部分を具体的に褒める。【援②】

☆♥活動後の紹介タイムで、J児とK児の作品を紹介した。【環③・援③】

○検証後も、ブーツ作りに継続的に取り組む姿が見られた。ブーツの両面の飾り付けには、とても手が込んでおり、作品からJ児の思いが詰まっている様子が感じられた。



### 【考察】

季節的行事を取り入れたコナーを作る際に、少人数でじっくりと取り組めるスペースにしたことで、仲の良い友達とのつながりを感じながら製作遊びに取り組むことができた。J児にとって、K児が人的環境として大きな役割を果たしていた。誘いに乗り、「いいね」と同感してくれるK児の存在が、J児の「次はこうしてみよう」と工夫しようとする思いの支えになったと考える。また、掲示物や小物を活用したコナーの雰囲気も、行事への思いを高める要素の一つとして有効だったと考える。さらに、J児の製作意欲への高まりを感じ、新たな材料への要望に応え、環境の再構成を行ったことで、意欲は高まり、イメージしている作品に仕上がっていく過程を楽しむことができた。

## 3 実践を通した変容

実践保育後、製作遊びにおいて遊びを展開する姿を担任間で見取り、図2に整理し



た。10月と比較すると、「1,自分なりに考え工夫して遊んでいる」「2,遊びを工夫する面白さを感じている」といった園児が増加した。これまで、同じ遊びに継続して取り組んでいる様子はあるが、遊び方に変化が見られなかった園児が、他児の遊びの工夫に対して面白さを感じ、園児同士で真似たり教えてもらったりする姿が見られるようになった。

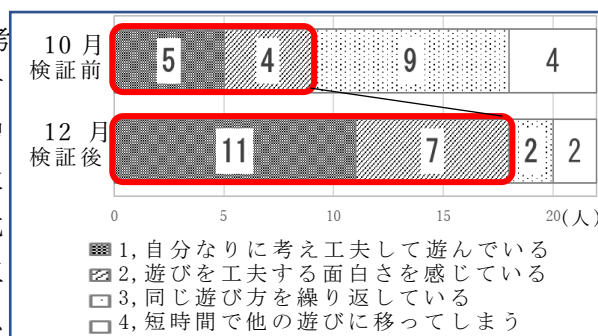


図2 遊びを展開する姿の変容

また、他者の遊びの工夫を知り、自分なりの工夫として製作遊びに取り入れていけるようになった園児も出てきた。これらのことから、園児の興味や関心に沿った援助を工夫し、個々の作りたい思いや、出来た喜びが満たされたことで、他児の遊びにも興味や関心を示し、遊びがつながり広がっていったことが伺える(事例1)。さらに、友達とのつながりを感じながらじっくり取り組める環境があり、十分に使える材料や時間の保障があることで、思いが満たされ、その経験が自信となり、自分なりに工夫しながら製作遊びに取り組む姿につながったと考える(事例2)。事例2で取り上げたJ児は、ブーツ作りの後には、事例1で盛り上がってきた動物作りにも、興味や関心を示すようになっていた。亀やハムスターを作り、「ハムスターのお家には、温かくするように草を入れよう。」と、毛糸をワラに見立てる等、他の遊びの場面でも材料を工夫する姿が見られた。

## VI 成果と課題

### 1 成果

- (1) 保育教諭が、園児の心の動きや育ちつつある姿を丁寧に見取り、興味や関心に沿った援助や他児の考えに触れる機会を作ったことで、個の活動が充実し、他児の遊びとつながったり広がったりと、園児が遊びを展開する姿へとつながった。
- (2) 保育教諭が園児の実態を捉え、発達に必要な経験が得られるような環境を構成し、さらに、遊びの姿に即して再構成を行った。このことにより、園児が自分の作りたい思いに向かい工夫することを楽しむ姿が見られ、その経験が自信となり、他の遊びにも主体的に取り組む姿につながった。

### 2 課題

活動後の紹介タイムにおいて、他児の作品のよいところを伝え合ったり、園児同士で考えを出し合ったりする等、場の進め方を工夫することで、互いの遊びを深める場としても活用できると考える。

### 《主な参考文献》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018

『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境』 無藤 隆・福元 真由美 萌文書林 2017

『心おどる造形活動—幼稚園・保育園の保育者に求められるもの—』 成田 孝 大学教育出版 2017